靈魂一元論

西周

青空文庫

靈魂爲質。純一無雜。性能感動、而好伸、名曰感性。及其稟化、而與現身相結合。此感性、得覺作二性之資。以爲身國之主宰、而能與外界庶物相交。故感性、與覺作二性相待、而爲用者。名之謂心。是通動性而同焉。

然而、此心雖能應庶物、而無窮。然至內部體機、榮養此心魂、與此軀幹者、則無一相關焉。是通植性而同焉。

又此心、雖能接外界、以引榮養此幹軀之資。然至外物供資之性、則亦無一相關焉。是通質性而同焉。

然則、靈魂爲身國活體之主宰、而能與外界庶物、相交、其道何如。

曰、靈魂與外界庶物相交。應其三性。取以供榮養身軀之資。名之謂生。然天機既毀。靈魂捐舍。是人、通動性而同者、名之曰死。

唯人之靈魂、殊稟帝之特准。能同類相扶。以宰制萬物。其道百出不測。然約之、則歸靈魂之德、心意之用。性理之學、所以爲開論場也。

曰、然則靈魂有形邪。曰、有。凡兩間之象、不實則虛。不容中立。既曰、有靈魂、則必有實質。然微之微、顯微之鏡、不能視之。至精之秤、不能量之。故言精神。言魂氣。所以別乎實質之踈者也。然其爲實在、不可疑矣。汝若疑其實在、則使汝疑者即是也。然若其形狀、則不可得而知。唯謂之圓體者、頗近理。

曰、靈魂寓於活體、何部位也。曰、在動性之大者、則頭腦爲之舍。而覺性之官具、多羅列其近傍、作性之官具、多排布遠裔。以供感受發動之命令矣。

曰、靈魂所以始、又所以終何如。曰、其始創也、帝錫也。人知、未及以知之矣。其終滅也、亦帝意也。人力、無如之何而已。唯推理而測之。觸類而長之。靈魂寓身躯。身躯死、則靈魂脱離。若覺作二性、毀壞歸於元質。唯靈魂、則固既爲元質。故一始之後不滅。或入顯界、或沒冥界。輪　無端、唯帝之命。雖然、造之者、能毀之。既爲帝錫、則與奪惟命。

蓋靈魂爲物。當受化之際。例與覺性相絶。是以、吾人、既不能知前身、又何依以知後身。唯依理而推之、引類而演之。若吾人現在之生、既爲第三化、則不可斷曰、死後無化矣。況若靈魂之感性與物質之眞性、其理間不容髮乎。然論之者、非此書之本旨。將於後篇、論述此感性之一元、爲何作用焉。（明治三年頃稿）

青空文庫情報

底本：「西周哲學著作集」岩波書店
　　1933（昭和8）年10月20日第1刷発行
※底本のテキストは、著者自筆稿によります。
入力：岩澤秀紀
校正：フクポー
2017年12月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

靈魂一元論

西周

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/